

V. 教会史に見る宣教実践(2世紀から近代まで)

1. 初期教会の宣教(2, 3世紀)

- **範囲**: ローマ世界を中心に、インド、ヨーロッパ北部に及んだ。2世紀末には、ローマ帝国中の約1割がキリスト教徒となった(中村 38)。
- **主な宣教者**: イグナティウス、殉教者ユスティヌス、エウセビウス、ポリュカルポス、アルメニアの使徒グレゴリウスなどが用いられた(中村 38-40)。
- **迫害と困難**: ローマ帝国はキリスト教を危険と見、様々な迫害を行った。しかし、「殉教者の血は教会の種子」との言葉のように宣教は進展した。

2. 初期ヨーロッパ宣教(4~11世紀)

- **コンスタンティヌスの回心(313)**によってローマ帝国における迫害が止み、キリスト教への国家的支援が始まったが、同時に信仰の純粋性も失われる傾向に進んだ。
- **宣教活動**: そんな中でも燃える宣教精神を抱いて多くの宣教師達がパイオニア的な働きを行った。ゴート族のモーセ、ウルフラスは聖書翻訳も行った。「フランスの守護聖人」マルティヌスはゴール地方で多くの回心者を起こした。「アイルランドの使徒」パトリックは、スコットランドからアイルランドに奴隷として連れ行かれ脱走したが後に召命を与えられてアイルランドに宣教師として渡り、多くの教会を建てた。アイルランドからスコットランドへの使徒となったコルンバはアイオナ島で修道院を樹立した。教皇からイングランドへ派遣されたアウグスティヌスは一年で1万人を授洗する等の成果を挙げた。アングロ・サクソン民族のキリスト教化は西洋歴史を変えた。ドイツ・オランダへ宣教し、20万人の受洗者を得て後に殉教したボニファティウス等傑出した宣教師達が目覚ましい成果を挙げた。アンスカールのスカンジナビア伝道、オーラフのノールウェー伝道等、ヨーロッパのキリスト教化はこの時代になされた。

- ### 3. 東方教会の宣教(9世紀以降)
- : ローマ帝国東西分裂(395年)により教会も東西に分かれた。1054年ローマ・カトリック教会から分かれたギリシア正教が独自の道を進んだ。9世紀末、キュリロスとメトディオスはコンスタンティノープル総主教からスラブ伝道に派遣され「スラブ人の使徒」と呼ばれた。19世紀、ニコライ・イリミンスキーはタタール人伝道を行なった。日本開国の後、ニコライが宣教師として派遣され、函館。東京で伝道した。コンスタンティノープルの総主教ネストリウスは、正統信仰から外れたとして教会から退けられたが、彼の流れを

くむ一派は6世紀以降宣教師をインド、アラビア、トルコそして中国まで宣教師を送り教会を建てた。特に中国では「景教」として確立された。

4. カトリック教会の宣教（11~16世紀）

- **十字軍の戦い**:11~13世紀、聖地奪還を旗印としてなされた十字軍の戦いの中、イスラム教徒への伝道に燃えた男がライムンドゥス・ルルスである。アラブ語を習得し、イスラム教徒の中心地チュニスで伝道した。何度も投獄され、80歳の時石打で殉教する。「愛さない者は生きていない。命なる方によって生きている者は死ぬことがない」が彼のモットーであった。
- **フランシスコ会の中国宣教**:13-14世紀、フランシスコ会のジョヴァンニは、中国元王朝の許可を得て北京に三つの教会を建て、6千人の改宗者を得た。
- **植民地支配との連動**:「新大陸」発見を契機として、欧州諸国による新大陸の植民地支配が始まった事に連動して、宗教的支配をも目的としたスペイン、ポルトガル等の王達は、「宣教」活動を応援してその植民地支配を強化した。
- **修道院運動**:この運動に霊的な息吹を与えたのが修道院運動である。形式主義に陥ったカトリック教会に霊的な命を吹き込む運動として発生した修道院活動は、宣教活動に燃えるイエズス会を生んだ。イグナティウス・ロヨラ、フランシスコ・ザビエル等の修道士達は、インド、中国、日本、フィリピン、アフリカ、メキシコ、カナダ等「新世界」への宣教を試みた。
- **ザビエルによる日本宣教**:16世紀、日本にキリスト教を伝えたザビエルは、日本文化・習慣を尊重した伝道方法で成果を上げ、最盛期には60万人の信徒を獲得した。彼は中国宣教をも試みたが開かれず、船上で病死した。彼が「おお岩よ、岩よ、何時汝は主に向かいて開けるや」と叫んだ事は有名である。彼の志を受け継いだマテオ・リッチは、中国宣教を進め、中国におけるキリスト教の土台を据えた(中村 79-82)。